



1973
48
年卒
第74回

卒業40周年の同窓会

岩城 一恵

平成二十四年十一月二日静岡中島屋ホテルにて開催されました。十年ごとに開催している同期会も4回目となり三十周年は関東にて企画しましたが、今回は静岡組が企画、私たちはサポーターに回りました。

当日は、総勢百名が集い、懐かしい先生方の近況をお話していただいた後、関東組が一次会のイベントと二次会を担当しました。部活ごとに文化部の活動を紹介する企画で司会をやらせていただきました。全国大会で活躍していたことや「何やっていたか忘れちゃった！」等の正直な発言もありました。聞いている内に静岡の3年間が卒業後、私が看護の道に進むきっかけを作ってくれたこととか、いろいろな思い出が蘇ってきました。また、運動部の活躍が目玉ですが、31もの文化部が活動していたことを知り、静岡の底辺

の広さを改めて感じました。

同じ会場で開かれた二次会では、クイズやフォークダンスなどで盛り上がり楽しい時間を過ごし、貴重な思い出の一日となりました。今後、五十周年六十周年と続けて、全国の仲間と繋がっていったらと願っています。2年後に静岡本部の総会の幹事役がまわってきます。また、静岡在住の同期に協力したいと思っています。



岡本 朗子

十三年前の当番幹事を契機に、忘年会、散策、ランチ会と格別の居心地で回を重ねている。夜を

徹して毎回UNOゲームに盛り上がる。ほろ酔い気分で昨年のリベンジに競い合う。侮れない一大イベントなのだ。

昨年十月二十五日、皇居一周ウォーキングに集まった。景観を楽しみながら、5キロ余りの緩いアップダウンを一時間程歩く。大地のエネルギーをもらい、銀座のビアホール、ライオンまで足を伸ばす。万歩計はすでに一万歩を超える。

レトロな空間で、美味しい生ビールと、昔懐かしい定番のランチを味わいながら、若人達のおしゃべりは尽きない。帰りに、復元したばかりの赤レンガの東京駅全見学。卒業から四十五年の秋の一日でした。何の気負いも要らない、掛け替えのない仲間が居る。次回もまた、皆元気に楽しもう。



卒業から 45 年の秋の一日

1967
42
年卒
第68回

一九会

高塚 年明

この数年一九会は活発な活動を行なっている。春は遠足、秋は同期会と恒例の行事となっている。

昨年4月14日には、31名で西濃の根尾の「うすずみ桜」見物に出かけた。蕾ではピンク、満開では白、散るときには墨色になるところから、この名前がついている。見ごたえのある桜だった。

11月3日には、静岡グラウンドホテルにて50名で同期会を開催した。不思議なもので、同期の仲間が集まると高校生に戻っている自分に気づくことがある。それは参加者全員が感じていることではないだろうか。当時のクラスでの話題、部活の話題、また3年生の夏に甲子園に出場した時の話題などで大いに盛り上がった。

一般に60代半ばになると、病気の話題が多くなりがちである。それが高じて愚痴になってしまいうことも多い。愚痴が多くなると精神的にも身体的にも老けてしまうと言われる。嬉しいことと一言九舌では、仲間から愚痴を聞いたことがない。皆爽やかな生き方をしている証拠です。これこそ今ある青春なのです。次回も青春しましょう！



静商一九会『なんと!!45年目の集い』

平成24年11月3日(土) 静岡グランドホテル中島屋



良知 章男

昭和41年静岡卒の関東同期会を、誰が名付けたか「よんいち会」と称します。今から6年程前の我々同期が還暦を迎えた頃、酒好きな数名と、酒は飲めないが面倒見の良い小林吉照君が連絡を取り合い本会が発足。平成19年12月に1回目の同期会を東京八重洲で開催したのが始まりです。その後、ほぼ年1回のペースで開催し、毎回20数名(うち女性が5〜6名)の仲間が集ま

ります。関東圏以外からの参加もあります。2回目以降は、同期の大石正年君が赤坂で経営する料理店「美よし」での開催が恒例になっており、いつも同君夫妻から美味しいサービスの提供を受けています。幹事役の小林君は、年1回の会報も発行してくれています。平成23年(東日本大震災が発生)の開催見送り等もあって、直近の平成24年は、11月10日(土)に3年振り(4回目)の開催となりました。諸事情により12名(うち女性2名)の参加と、従来に比べて少人数になってしまったものの決行することになりました。少人数とはいえ、会が始まればいつも通りの盛り上がり。往時の思い出話、恩師や仲間の消息、仕事や家庭での苦労話、近況の報告等々と話題は多岐に亘り、美味しい料理や酒とも相俟って時間の経つのを忘れず。いつもは冷静なカメラマン役の小林君も、今回は撮影を忘れる始末。頭を掻きながら、最後に集合写真撮影して散会しました。

